

神楽名

むかひやま ひ ぞえ 向山日添神楽

伝承地

向山地区
椎葉村大字不土野字向山日添

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

向山日添神楽保存会
代表 椎葉 公之



大神神楽（子供神楽）

◆ 神楽の概要・由来・その他

向山日添は椎葉村西端部に位置し、上組と下組合わせて26世帯、住民約80名の集落である。生業として焼畑やきはたが継承される全国唯一の地であり、この「椎葉の焼畑農耕」は県指定無形民俗文化財に指定されている。

向山地区の神楽の起源は、向山日当の蔵座七左衛門が、360年ほど前に高千穂つちもちいせのかみの土持伊勢守に師事し、3年3ヶ月かけて神楽三十三番を習得したのに始まるという。日本武尊やまとたけるのみことを祭神とし平家残党の霊を祀る向山神社は、元久元年（1204）の勧請と伝わり、地元では旧称の白鳥神社の名で親しまれている。向山神社は向山日添に隣接する向山日当ひあて、追手納おてのうと共に各地区の氏神様であるが、祭祀は個別に執り行われる。地区間の交流が盛んで祭事の共通点が多く、それぞれの夜神楽で一演目を奉納しあっている。熊本県の五家荘ごかのしょうとの神楽交流も盛んである。向山日添神楽は神事を司る太夫たゆうと舞を司る仲司なかじを中心に、世話役である通頭つうかしらなどで構成され、奉納されている。

◆ 芸能の機会・場所

- 向山日添神楽... 12月の第1土曜・日曜、冬の祭典として 地区公民館である峰越みねこしの館にて奉納される
- 太鼓の口開け... 1月11日「一神楽」「扇の手」「地割」の式三番を舞う

◆ 演目一覧

あんなが 案永	みこうや 御神屋	おだりやめ	一神楽	扇の手
じわり 地割	つるぎまい 剣舞	大神神楽	子供神楽	鬼神
しやかきば 榊葉	ごってんのう 五ツ天皇	五ツ天皇の使い	ちんち神楽	一人神楽
おきえ	森の弓	森の矢	弓通し	しょうごんどの 正護殿
よったりだいじん 四人大神	稲荷神楽	かんしん	あさかぐら 朝神楽	神送り・泰平楽 <small>たいへいらく</small>

※平成28年12月の神楽奉納の番付に基づく

◆ 演目の特徴

地区の記念の年など節目の年には外神屋が作られ、「注連ほめ」と「注連倒し」の演目が加えて奉納される。「神屋のツカワレ」とよばれる未婚の女性が夜神楽の間、御神屋内で飲食の補助をする。「おだりやめ」は太殿の飯上げともいい、座したまま採り物を歌に合わせ膳の上で振り、舞いはじめる。神に御供をさしあげるとともに参加者にも一箸ずつ配られる、神人共食の神事舞である。狩猟神楽である「森の弓」「森の矢」ではしょうごん殿の鹿狩りの様子が舞い表されていると云う。向山日添独自の演目、最後の「泰平楽」では一晩中神楽で使用した御幣を配り、全員でこの世が太平でありますようにと願って舞う。

◆ その他の特徴

- 面... 鬼神、手力 等
- 楽... 太鼓
- 装束... 白張（白の舞衣）、白袴、青袴、白笠、烏帽子、宝冠（紙）、鉢巻 等
- 採り物... 鈴（錫杖型）、扇、御幣、刀、面棒、襷、弓、矢、榊枝、盆、木のコブ 等
- 文書... 「向山日添 神楽唄」「向山日添神楽太夫口伝書」等

◆ 伝承の現状・課題

舞手は大人16名。子供たちは集落にて基本の「大神神楽」を習い、小学校低学年から人前で披露する。向山日添神楽を広く知ってもらいたいと考えており、平成29年度の国立能楽堂での神楽公演など、若い世代を中心に精力的に伝承活動を行っている。若者が地元で働ける環境が必要。仕事があれば、地元で神楽を舞う意識付けが出来ている。



一人神楽



弓通し



かんしん